

救急救命学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	11	法律入門
1年	19	微生物学
1年	40	疾病救急医学Ⅳ
1年	44	外傷学Ⅱ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	C0-0-HS0-04				
	●			●						
科目名	法律入門				単位認定者	鈴木 一樹		授業内課題（小テスト・提出物）等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	栄養学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	法律の種類と法律を学ぶ意味									
2	憲法（1）基本的人権 ー平等権，精神的自由等ー				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
3	憲法（2）基本的人権 ー経済的自由，その他の人権ー				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
4	憲法（3）人権総括，統治機構				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
5	民法（1）総則				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
6	民法（2）物権				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
7	民法（3）債権（契約等）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
8	民法（4）債権（不法行為）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
9	民法（5）親族・相続				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
10	刑法（1）総論				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
11	刑法（2）各論				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
12	会社法（1）総論，株式				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
13	会社法（2）機関，組織再編				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
14	消費者法				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
15	まとめ（小テスト）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）					
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。15回目は教室で動画視聴してから小テストを実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。各回の授業内課題については、その回で学んだことや印象に残ったことを記述したものとする（様式は特に問わない。LMSで提出とする）。授業内課題の評価については、小テストの結果も含むものとする。小テストの実施方法は後日連絡する。課題については、講義内でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

公認会計士として上場企業等の法定監査、税理士として税務業務に従事。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-03				
	●	●								
科目名	微生物学				単位 認定者	岩間 正典		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内 課題等	10 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	自然界には、細菌、真菌、寄生虫、ウイルス等あらゆる種類の微生物が生息している。多くの病原微生物が、ヒトや環境とどのように関わり合いながら、どのようにしてヒトに感染症を引き起こすのかを学修する。感染症の成り立ちについて、感染源、感染経路、宿主免疫と感染等の観点から学ぶ。また、病原性微生物の薬剤耐性についても理解する。救急救命の現場で、感染を防ぐための土台となる微生物学的基礎知識を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の原因となる病原微生物をあげ、それぞれの特徴について説明できる。 2. 微生物の形態や生理機能を理解し、病原性について説明できる。 3. 感染源・感染経路・感受性宿主の関係を理解し、感染予防策について説明できる。 4. 消毒、殺菌、滅菌方法を理解し、その適応と注意点を説明できる。 5. 病原微生物の抗菌剤への耐性機構を理解し、耐性菌について説明できる。 									
学修者への期待等	微生物学では、微生物が持つ生命現象そのものを理解する生物学的な側面と、感染症を理解する医学微生物学固有の側面とがあります。また各論については、必要な情報を厳選することに努力しますが、見たことも聞いたこともない微生物の名前や用語が多数出てくると思います。意欲をもって授業に望んでください。									
回	授業計画				準備学修					
1	微生物学総論 ①微生物学の歴史、②微生物の生物学的位置とその範囲、③微生物の基本的形態と大きさ				微生物の世界を紹介します。授業の資料等について復習に努めてください(30分)。					
2	細菌学総論 ①細菌の増殖と遺伝、②細菌とファージ 細菌学各論 I グラム陰性菌 (主な病原細菌の特徴と感染症)				細菌学の講義に入ります。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
3	細菌学各論 II ①グラム陽性菌 (主な病原細菌の特徴と感染症) 細菌とその周辺微生物 ①スピロヘータ、②マイコプラズマ、③レプトスピラ、④リケッチア、⑤クラミジア (微生物の特徴と感染症)				細菌学のまとめと周辺微生物についての講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
4	ウイルス学総論 ①ウイルスの増殖と一般性状 ウイルス学各論 I ①DNAウイルス				ウイルスについての講義に入ります。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
5	ウイルス学各論 II ①RNAウイルス ウイルスとその周辺微生物 ①ウイロイド、②プリオン				ウイルス学のまとめと周辺微生物についての講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
6	真菌学 ①真菌の構造と一般性状、②真菌による疾患 原虫学・寄生虫学 ①原虫の種類と感染、②寄生虫の種類と感染				真核生物について講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (30分)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
7	微生物と薬剤耐性 ①細菌の薬剤耐性、②ウイルスの薬剤耐性、③原虫の薬剤耐性 感染防御と免疫 ①自然免疫と獲得免疫、②免疫不全				微生物の感染により起こる疾患の対策についての基礎的な講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
8	微生物と感染制御 ①殺菌・消毒・滅菌、②PPE (個人防護具)、③BSL (バイオセーフティーレベル)				消毒等の微生物制御についての基礎的な講義を行います。事前に教科書の該当ページを読み授業に臨んでください (1時間)。また、授業後は配布された資料をノートにまとめるなど復習に努めてください (1時間)。					
教科書	『シンプル微生物学 改訂第6版』編集 小熊恵二・堀田博・若宮伸隆、南江堂									
参考文献										
備考	第1回目の講義資料は印刷したものを配布しますが、第2回目以降の講義資料は事前にLMSで配信を行いますので授業の前に印刷等の準備をしてください。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-04				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学IV				単位認定者	佐藤 武諭毅		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		40 時間	受講態度
						授業回数	20 回			
授業の概要	<p>救急救命の現場で遭遇することの多い特徴的な疾患について学修する。小児の救急疾患は、基本的には成人の場合と処置は同様だが、訴えが不明瞭であるために重症度の判断や重症化の予知が困難等の特徴がある。小児の年齢によって好発する疾患があり、同じ疾患でも低年齢ほど重症化しやすいことも特徴といえる。高齢者の救急疾患には、加齢による身体機能や精神機能の変化を背景とした疾患であることが多い。母体の救急疾患には、母体と胎児・新生児の観察・処置等を同時に行うという特殊性があり、分娩介助が必要となる場合もある。精神障害には、それぞれの精神症状にあわせた適切な対応が求められ、自傷他害の恐れがあるケースもある。「疾病救急医学IV」では、小児に特有な疾患、高齢者に特有な疾患、妊娠・分娩と救急疾患、精神障害について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。</p>									
到達目標	各項目のそれぞれの傷病者に対しての知識を深めるとともに、必要な対応ができるようになる。									
学修者への期待等	テキストで予習・復習をすること。授業で学んだ症例がシミュレーションの症例としても出てくるので合わせて理解を深めてほしい。様々な疾患を持つ傷病者に寄り添い、適切な対応ができることを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	感染症① (総論)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
2	感染症② (敗血症、結核、インフルエンザ、食中毒)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
3	感染症③ (輸入感染症、発疹性感染症)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
4	感染症④ (性感染症)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
5	感染症⑤ (皮膚軟部組織、その他の感染症)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 11感染症で予習・復習すること(概ね1時間)。					
6	小児に特有な疾患① (総論) ・実技も含む				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
7	小児に特有な疾患② (観察と判断) ・実技も含む				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
8	小児に特有な疾患③ (神経系・呼吸系)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
9	小児に特有な疾患④ (消化系・感染症)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					
10	小児に特有な疾患⑤ (その他の疾患)				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 12小児に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。					

回	授業計画	準備学修
11	高齢者に特有な疾患① (加齢による変化)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
12	高齢者に特有な疾患② (高齢者疾患の特徴、傷病者への対応)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
13	高齢者に特有な疾患③ (認知症、せん妄、脱水)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
14	高齢者に特有な疾患④ (骨粗鬆症、褥瘡、廃用症候群)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 13高齢者に特有な疾患で予習・復習すること(概ね1時間)。
15	妊娠・分娩と救急疾患① (正常妊娠、異常妊娠と妊娠中の異常)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること(概ね1時間)。
16	妊娠・分娩と救急疾患② ・実技も含む (正常分娩、異常分娩)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること(概ね1時間)。
17	妊娠・分娩と救急疾患③ ・実技も含む (観察と処置)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 14妊娠・分娩と救急医療で予習・復習すること(概ね1時間)。
18	精神障害① (総論)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること(概ね1時間)。
19	精神障害② (主な精神障害)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること(概ね1時間)。
20	精神障害③ (向精神薬の主な副作用)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 15精神障害で予習・復習すること(概ね1時間)。
教科書	『救急救命士標準テキスト 改訂第10版』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
参考文献		
備考		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-TEM-02				
	●	●		●						
科目名	外傷学Ⅱ				単位認定者	佐藤 武諭毅		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態		講義		授業時間数	40 時間
				授業回数		20 回				
授業の概要	<p>外傷とは、広義では、機械的、物理的、化学的な外力により生じた組織・臓器の損傷のことをいう。「外傷学Ⅱ」では、骨盤外傷、四肢外傷のほか、小児・高齢者・妊婦の外傷や、熱傷、化学損傷、電撃傷・雷撃傷、縊頸・絞頸、刺咬症等の特殊な外傷について、それぞれの受傷機転、発生機序、病態、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、外傷に対応する基礎知識を身につける。</p>									
到達目標	<p>防ぎ得た外傷死を減らすための外傷に対応する知識を深め、説明できる。外傷学Ⅰ・Ⅱで学修した内容をシミュレーション等で実践することができる。</p>									
学修者への期待等	<p>テキストで予習・復習を行うこと。授業で学んだ内容をシミュレーション等で実践することができる。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、重要な項目のひとつだという事を念頭に置いて授業に臨んでほしい。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	骨盤外傷① (疫学、受傷機転、病態)				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学1疫学と外傷システム～4外傷の現場活動まで外傷学Ⅰの復習を予習として実施すること(概ね1時間)。					
2	骨盤外傷② (主な外傷)				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学10骨盤外傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。					
3	骨盤外傷③ (現場活動)				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学10骨盤外傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。					
4	四肢外傷① (疫学、病態)				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学11四肢外傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。					
5	四肢外傷② (主な外傷)				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学11四肢外傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。					
6	四肢外傷③ (現場活動)				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学11四肢外傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。					
7	小児の外傷 (特徴、主な外傷)				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学12小児・高齢者・妊婦の外傷、テキスト第Ⅲ編専門分野第5章疾病救急医学12小児に特有な疾患の予習・復習をすること(概ね1時間)。					
8	高齢者の外傷 (特徴、主な外傷)				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学12小児・高齢者・妊婦の外傷、テキスト第Ⅲ編専門分野第5章疾病救急医学13高齢者に特有な疾患の予習・復習をすること(概ね1時間)。					
9	妊婦の外傷				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学12小児・高齢者・妊婦の外傷、テキスト第Ⅲ編専門分野第5章疾病救急医学14妊娠・分娩と救急疾患の予習・復習をすること(概ね1時間)。					
10	骨盤外傷～小児・高齢者・妊婦の外傷まとめ				テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学10骨盤外傷～12小児・高齢者・妊婦の外傷で復習すること(概ね1時間)。					

回	授業計画	準備学修
11	熱傷① (疫学と受傷機転、病態)	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学13熱傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。
12	熱傷② (注意を要する熱傷、評価)	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学13熱傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。
13	熱傷③ (現場活動)	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学13熱傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。
14	化学損傷① (各種の化学損傷)	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学14化学損傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。
15	化学損傷② (観察、処置)	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学14化学損傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。
16	電撃症・雷撃症	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学15電撃傷・雷撃傷の予習・復習をすること(概ね1時間)。
17	縊頸・絞頸	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学16縊頸・絞頸の予習・復習をすること(概ね1時間)。
18	刺咬症(傷)① (哺乳類、爬虫類)	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学17刺咬症(傷)の予習・復習をすること(概ね1時間)。
19	刺咬症(傷)② (節足動物、海洋生物)	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学17刺咬症(傷)の予習・復習をすること(概ね1時間)。
20	熱傷～刺咬症(傷)まとめ (小テスト)	テキスト第Ⅲ編専門分野第6章外傷救急医学13熱傷～17刺咬症(傷)で復習をすること(概ね1時間)。
教科書	『救急救命士標準テキスト 改訂第10版』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック』一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版	
参考文献		
備考		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--